

潜在性ケトーシス

潜在性ケトーシスは血中および尿中ケトン濃度が上昇するものの、食欲不振や産乳量の著しい低下などの重篤な臨床症状が観察されない状態を示し、分娩後 50 日以内の 10~30% の乳牛にみられます。病牛は軽度の産乳量の低下 (1~40/日)、発情や受胎時期の遅延などに伴う生産性の低下を招きます。

本病の正確な診断には血清 β -ヒドロキシ酪酸 (BHB) 濃度測定 ($1,400 \mu\text{M}$ 以上) が求められますが、尿試験紙により代替でき、「++」(アセト酢酸濃度 20mg/dl) 以上の成績が得られた際には本病が疑われます。分娩後乳牛の飼養管理に尿試験紙を活用することにより、本病による経済的損失を最小限に留めることが可能です。

(岩手県中央家畜保健衛生所 病性鑑定課)

尿ケトン成績と血清BHB濃度

